



# 出題傾向

各試験の「参考となる問題」は、「ザ・ベスト プラス」の掲載問題だよ。

「ザ・ベスト改訂版」を使っている人は、その本に載っている「参考となる問題」を見てね！



## 国家公務員 総合職・一般職・専門職

出題傾向	総合職は2問、一般職と専門職は3問の出題で、資料の複雑さは標準レベル。表とグラフが割とバランスよく出題されており、推理、分析力を必要とする問題もある。
参考となる問題	総合職 〈アウトプット編〉 7-4, 8-1, 8-2, 10-4, 11-3, 12-3, 12-4  一般職・専門職 〈アウトプット編〉 4-2, 5-2, 7-3, 9-1, 9-2, 9-4, 10-2, 10-3, 11-2

## 裁判所職員 総合職・一般職

出題傾向	例年1問の出題で、ここ数年、数表の出題が続いていたが、2014年、2015年はグラフが出題されている。2010年までの数年間は複数のデータを絡ませたハイレベルな問題だったが、2011年以降は1種類の図表のみで標準的な問題となっている。
参考となる問題	〈アウトプット編〉 7-2, 9-2

## 地方上級 全国型・関東型・中部北陸型

出題傾向	基本的にグラフ1問（共通）の出題だが、自治体によっては独自問題が追加される場合もある。共通問題のグラフは、複雑なものではないが、グラフの見方や意味を考えさせるタイプが多い。計算はほぼゼロである。
参考となる問題	〈アウトプット編〉 5-1, 6-4, 7-1, 8-3

## 東京都 I 類A・B

出題傾向	4問（新方式は5問）の出題で、毎年同じ型のグラフ（実数の棒グラフ、増加率の折れ線グラフ、構成比の帯グラフ、増加率の複合資料）が出題されている（4問目については例外あり）。選択肢の内容も似ているので、過去問を3年分位並べて解いて、対策を立てておくとよい。やや面倒な計算が必要な問題もある。
参考となる問題	〈インプット編〉 #3 PLAY!2, #4 TRY! 〈アウトプット編〉 3-2, 4-3, 5-3

## 特別区 I 類

出題傾向	4問の出題で、数表とグラフがバランスよく出題されている。東京都ほどではないが、似たような資料が出題される傾向にあるので、過去問をより多く解いておくべきである。複雑なデータはほとんどなく、やや面倒な計算が必要な問題も多い。
参考となる問題	〈インプット編〉 #2 PLAY!, TRY!, #3 PLAY!1, #4 PLAY!1 〈アウトプット編〉 3-4, 4-1, 5-4, 9-3

※情報は2015年度試験終了時のものです。  
更新情報は、こちらに掲載いたします。

[www.exia-pub.co.jp](http://www.exia-pub.co.jp)